

# 日本テコンドー協会試合法

## 後遺障害防止法 一 「肘打ち」即反則負け

2017年9月1日

日本テコンドー協会

宗師範 河 明生

日本テコンドー協会（JTA）が普及するのは、技あり・一本勝ちを認めるフルコンタクトテコンドーである。しかし、試合後、負けた選手の後遺障害を何人も望んではいない。

幸いにも約34年間、死亡はもとより、後遺障害もない。

今後とも、大会後の事例を検証し、ルールの改善、とりわけ反則技の徹底をはからなければならない。

第15回関西テコンドー選手権大会二部無差別級組手においてA選手の肘がB選手の顎を直撃した。

Bはヘッドギアを着用していたが、相当なダメージを受けた。

主審等は故意ではなかったと判断し、注意1としたが、Bのダメージは残り、Aが勝利してしまった。

試合後、Bは顎がはずれそうな状態となり、救急車を呼ぶか否かを様子を見ながら判断することとなった。

これはAがキャリア不足のため、あわてて回し打ち（フック）類似の攻撃をしたためとみなされる。

しかし、顔面への回し打ちは、

フルコンタクト・テコンドー・ルールはもとより

その前提段階であるライトコンタクト・テコンドー・ルールはも、有効打としても認められていない。

顔面への「肘打ち」は危険である。

よってJTAは、試合上、「肘打ち」を禁止している。

また、故意過失にかかわらず相当なダメージを相手に与えてしまう。

そこで次のように定める。

## 記

### 第1条 「肘打ち」および類似動作の即失格

- 1, J T Aの全公式戦組手全種目においては、対戦選手の顔面（正面・側面・後頭部）に肘を当ててはならない。
- 2, 例外は認めない。  
たとえば、キャリア不足・技術不足・あがったため・興奮したため等により
  - ①突き（ストレート）をはなつたつもりが、肘をまげてしまい、相手の顔に肘が当たってしまった場合
  - ②突き（ストレート）をはなつたが、相手が接近したため、とっさに肘を曲げたところ相手の顔に肘が当たってしまった場合
  - ③防御をしようとしたところ相手が接近したため相手の顔に肘が当たってしまった場合
  - ④その他、相手の顔に肘が当たってしまった場合

### 第2条 「肘打ち」の即時失格

- 1, 故意・過失にかかわらず顔面を肘で打った場合（当たった場合も含む）は、即時失格処分とする。
- 2, 上記裁定につき不服・不遜な態度をとった者は、J T A公式戦永久出場禁止処分とする。

本法は、2017年9月1日J T A全公式試合において施行する。